

授 業 科目名	教養講義（人文地理学Ⅱ）	選 択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目／教科に関する科目（社会・地歴）					
サブ タイトル	地理空間の規則性		担当者	伊藤 修一		
講義概要	<p>【概要】 地理学での地域の捉え方の1つには、様々な地域でみられる事象の一般性や法則性を追求する系統地理学的方法がある。この講義では、この方法に基づいて、具体的な例を通じて、特に都市や商業・工業の立地に関する、一般的な考え方を概説する。</p> <p>【到達目標】 都市や商業・工業の古典的な立地法則を理解して、空間や距離と諸産業・経済とが相互にどのような影響を与えているかを具体的に説明できることを目標とする。</p>					
履修条件	講義の際は色鉛筆（12色程度、小学校などで使ったものでよい）と定規（20cm程度）を用意すること。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】 中学校・高校などで用いた地図帳</p> <p>【参考書】 講義の中で適宜紹介する。</p>					
授業回数	内容					
1	イントロダクション					
2	都市とは？①—都市の定義と問題点					
3	都市とは？②—日本の都市の分布の特徴					
4	都市の規模とその法則性					
5	都市（商業）の立地①—クリスタラーの「中心地理論」の基礎					
6	都市（商業）の立地②—クリスタラーの「中心地理論」の実際					
7	都市（商業）の立地③—クリスタラーの「中心地理論」の応用					
8	工業の立地①—ウェーバーの「工業立地論」の基礎					
9	工業の立地②—ウェーバーの「工業立地論」の実際					
10	都市や地域の結びつき①—「結びつき」の構造					
11	都市や地域の結びつき②—病気や技術、情報などの空間的な伝播・拡散					
12	都市や地域の結びつき③—「結びつき」を規定する要因					
13	都市や地域の結びつき④—「結びつき」の計測と評価					
14	都市や地域の結びつき⑤—「結びつき」の計測と評価					
15	まとめ					
評価方法	講義のなかで実施される論述型式の試験の結果（50%）と、課題への取り組み・提出・返却状況（50%）に基づいて評価される。					
評価基準	上記授業単元の内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	特になし					